

新潟市教育委員会 平成27年6月 定例会会議録				
日 時	平成27年6月24日(水) 午後4時00分			
場 所	市役所白山浦庁舎7号棟 405会議室			
教育長	前 田 秀 子			
出席委員 (7名)	吉 村 委 員	出席委員	眞 谷 委 員	
	齋 藤 委 員		佐 藤 委 員	
	織 田 委 員			
	伊 藤 委 員	欠席委員	沢 野 委 員	
	藤 田 委 員			
会議に出席 した職員 (19名)	職・氏 名		職・氏 名	
	教 育 次 長	高 島 徹	生 涯 学 習 センター所長	三 保 恵 美 子
	教 育 次 長	長 浜 裕 子	生 涯 学 習 センター次長	井 関 一 博
	教育総務課長	上 所 隆	中央公民館長	五 十 嵐 政 人
	学 務 課 長	川 崎 健	中央図書館長	山 川 正 士
	施 設 課 長	小 林 正 人	中央図書館 サービス課長	松 田 玲 子
	保健給食課長	松 崎 義 春	新津図書館長	松 原 伸 直
	地域教育推進課長	佐々木 克己	教育総務課係長	灰 野 梢
	教 職 員 課 長	吉 田 隆	教育総務課主査	石 田 貴 宏
	総 合 教 育 センター所長	高 地 啓 衛	教育総務課主査	小 林 夏 那 恵
	学校支援課長	大 井 隆		
その他の 出席者 (0名)				

開会	時 刻	午後4時00分
	宣 言 者	教育長
報告 (4件)	件 名	
	新潟市立小中学校児童生徒数・学級数推計について	
	平成28年度使用教科用図書(中学校用図書)及び平成28年度使用一般図書(特別支援学校・学級用)の専門調査員の委嘱について	
	潟東小学校の校章・校歌の作成について	
	新潟市教育フォーラム2015クロスパルにいがた開館10周年記念講演会「ともに学び, 育ち, 創る～ゆたかな新潟を目指して～」事業報告について	

第1 開会宣言

○教育長

午後4時00分開会を宣言する。

本日、沢野委員から本日の会議を欠席するとの連絡が入っておりますが、会議の定足数である過半数を満たしております。

本日、報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありますが、これを許可することにご異議はありませんでしょうか。

よろしければ、許可することで決定します。

第2 会議録署名委員の指名

○教育長

新潟市教育委員会会議規則第11条により、会議録署名委員に齋藤委員及び織田委員を指名します。

第3 報告

○教育長

これより報告案件に入ります。

「新潟市立小中学校 児童生徒数・学級数推計について」を教育総務課からお願いします。

○教育総務課長

市立小中学校の児童生徒数と、通常学級数の今年の実数及び平成33年度までの推計値がまとまりましたので、ご報告いたします。

資料は、新旧の概要をまとめたものとなっております。児童数・生徒数・学級数推計をご覧ください。今年度の市立小中学校の通常学級の児童・生徒数は、小学生が3万8,945人、中学生が1万9,517人で、学級数はそれぞれ1,438級、627学級となっております。昨年度と比較しますと、小学生は255人、中学生は459人の減少となっております。平成33年度の推計では、平成27年度と比較し、小学生が696人減、中学生が163人減の3万8,249人、1万9,354人と見込まれております。

この推計値につきましては、住民基本台帳上の子どもの数を基に算出したもので、附属小中学校、私立中学校、中等教育学校、分校、特別支援学校及び特別支援学級に進む子どもの数も平成33年度の推計の中に含まれております。したがって、実際の通常学級の人数はこの数を下回ることとなります。

次に2番目の行政区別の児童生徒数推計です。平成33年度までの各行政区別の児童生徒数の推計値をグラフにしたもので、中央区については増加傾向、西区、東区、江南区、南区についておおむね横ばい、秋葉区、北区、西蒲区については減少傾向です。各区とも昨年度での推計と同じ傾向です。

次に3番の複式学級を有するまたは見込まれる小学校です。なお、中学校につきましては該当する学校はありません。

今年度、複式学級を編成した小学校は笹山小学校、豊栄南小

学校、満日小学校、笠木小学校、越前小学校の5校です。このうち笹山小学校については平成33年度に、豊栄南小学校においては平成29年度から児童数の増加により複式学級が解消される見込みとなっております。また、満日小学校につきましては、平成29年4月に阿賀小学校と統合する予定です。しかし、新たに南浜小学校と新関小学校が平成33年度に、西区の小瀬小学校が平成32年度から複式学級を編成する見込みとなっているため、平成33年度にも5校が複式学級となる推計です。

次に4番の大規模化が進行する学校です。土地区画整理事業などによる宅地開発や、県の少人数学級パイロット事業などにより、児童生徒数、学級数が増え、大規模化がさらに進み、また新たに大規模校となる学校を抜き出したものです。現在の大規模校のうち、小学校では東山の下小学校、牡丹山小学校、鳥屋野小学校、中学校では鳥屋野中学校、上山中学校、坂井輪中学校が今後も大規模化の進行が見込まれます。また新たに上山小学校、亀田中学校、新津第二中学校、内野中学校が今後大規模化の進展が見込まれています。

報告3から報告6につきましては、各小中学校をそれぞれ学級数別に並べた一覧表となります。中央に縦に学級数とありますが、その左側が小学校、右側が中学校となっており、それぞれ該当する学級数のところに校名が入っております。報告3、報告4が平成27年度の実数、報告5、報告6が平成33年度の推計値です。

次に報告7から報告9は、各小中学校の児童生徒数と学級数の平成27年度の実数と平成28年度から平成33年度までの各年度の推計値を行政区別に一覧にした資料です。

最後に報告11から報告40は、各小中学校の学年別の推計値を記載した資料です。なお、報告3から報告40までは市の統計値として公表しております。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問等はございますでしょうか。

次に、「平成28年度使用教科用図書（中学校用図書）及び平成28年度使用一般図書（特別支援学校・学級用）の専門調査員の委嘱について」は人事案件でございますので、非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声）

○教育長

それでは、非公開案件とし、再開して審議することといたします。

次に、「潟東小学校の校章・校歌の作成について」を学校支援課からお願いします。

○学校支援課長

はじめに、新設校の校章の作成方針についてです。統合され

る3校の子どもたちの校区や新設校に対する思いや願いを生かした校章、新設校で育てたい子ども像にふさわしい校章を作ることを目指しています。デザイン制作者については、潟東地域の連合自治会長会と統合実行委員会にそれぞれ出向き、新潟市にゆかりのある人、新潟県内大学関係者等、複数のデザイン会社について資料を示し、地域の意向を伺ってまいりました。地域としては、これまでの校章の制作の経緯や、地域や子どもたちの意見を生かして制作を進める方をお願いしたいという意向でしたので、それを踏まえ検討した結果、新潟大学教育学部の橋本学准教授に依頼することにいたしました。

橋本学准教授の経歴等は(3)デザイン作成依頼者をご覧ください。橋本学准教授はデザイン専門で、自らも個展を開催する作家で、これまでも両川小学校、新潟柳都中学校等の校章について、地域や子どもたちの思いを生かしたデザインの制作をお願いしてまいりました。

次に、作成スケジュールです。(2)のように進めております。これまでに3校の統合理念、歴史、校区のイメージ、子どもたちや地域住民の新しい学校への思いなどのアンケート調査によって収集しました。これらを参考に、制作者に6月末をめぐりにデザイン案の作成をお願いし、学校や地域で検討しながら案を絞り込み、9月末日には校章デザインを決定いたします。新設校にふさわしい校章となるよう、学校、地域などで制作者との連絡を密にとりながら作成を進めてまいります。

次に校歌についてです。校歌についても、潟東小学校で育てたい子ども像にふさわしいものを制作するという方針のもと、子どもたちや地域住民の新設校に対する思いや願いを生かして制作に携わってくださる方をお願いしたいと考えました。校章と同様に、潟東地区連合自治会長会や統合実行委員会に出向き、新潟市にゆかりのある人物や、県内大学関係者、新潟市の音楽文化の発展に貢献している方々等、複数の候補者についての資料を地域にお示ししました。また、過去に制作された両川小学校や日和山小学校の校歌を実際に聴いていただいたうえで、地域の方々の意見を伺いました。子どもたちの新しい学校に対する思いや願いを生かし、これまでと違った新しい校歌を作ってください方をお願いしたいとの地域の意向を踏まえたうえで、人選を進めた結果、作詞については渾川正人氏、作曲については野瀬珠美氏に依頼することにいたしました。

作詞家の渾川正人氏は、新潟市市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)演劇スタジオAPRICOT(アプリコット)において脚本、演出を担当し、ミュージカル劇中の歌の作詞も手がけて

おり、子どもらしく希望あふれる演劇や歌詞を多く作成してきた方です。

作曲者の野瀬珠美氏も、新潟市市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）演劇スタジオAPRICOTにおいて音楽を担当されており、APRICOTにおける作品をはじめ、国内外に多くの楽曲を提供されている方です。子どもの発達段階を考慮した趣や旋律で多くの方に親しまれる楽曲を作曲されています。

お二人とも新設の潟東小学校に対する児童や住民の思い、多くの景色や風土を大切にし、学校や地域を誇りに思うことができる校歌を作りたいと、地域の思いを大切に受け止めています。校章同様、アンケートで集めた子どもたちの新設校に対する思いや願いをお二人にお渡しいたしました。その思いや願いを制作に活かしていただき、素晴らしい効果を作成していただけるものと期待しております。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問等がございますでしょうか。

○伊藤委員

確認ですけれども、子どもたちからアンケートをいただいて、新しい学校へのイメージをお届けしたということですが、地域住民の方たちの思いや願いというものもアンケートをとったということでしょうか。それを生かしながらということで、その方向を教えてください。

○学校支援課長

児童、保護者、職員、地域で共通した内容でお聞きし、集約したものをまとめてお話ししてあります。

○織田委員

校章についてです。校章のデザインですが、前回、日和山小学校のときにも私は発言させていただいたと思うのですが、この経歴等を見ても分かるように、直近の新設の校章はずっと橋本先生にお願いしている経緯があると思います。先ほどの説明では「児童や地域住民の思いや願いを酌んで制作をしてくださる方を」という条件で地区住民の方が製作者を選ばれたということですが、橋本先生の他に皆さんの思いを酌んでくださる製作者がいらっしゃらないということでしょうか。

○学校支援課長

このときには、潟東地区は、なるべく変えるという意見がありましたので、製作者を変更できればという思いがありまして、最初は赤塚不二夫さんが潟東出身でいらっしゃいますので、その関係でフジオ・プロダクションにお願いを申し出たのですが、現在、ご本人は逝去されているということと、制作が難しいという返事をもらいまして、そのことについても潟東にはお伝えしました。先生につきましては昨年度同様に、新潟大学の美術の3名の先生をご紹介しまして、加えて、それだけではよくないということで、新潟市にもデザイナーはいるだろうというご意見がありましたので、新潟市内のデザインを手がけ

ている会社はデザイナーを抱えていますので、いくつかの会社でロゴマークのサンプル作品と一緒に、13社くらいを地域の方にお示ししたのですけれども、やはり経緯を見たときに、継続して私たちの願いを聞いてもらいたいし、デザインの先生が作っている今までの校章を見ていただいて、非常にいいということで、できれば橋本先生にお願いしたいということになりましたので、そういう思いであればということで、今回、再度という形になったのですけれども、ここについては橋本先生にお願いするというので進めさせていただきました。

○齋藤委員

今の織田委員と同じ質問を、以前私もしたのではないかと思います。今の発言をお聞きしていて、デザイン会社を地域住民に紹介しても、具体的にどのようなデザイン会社で、どのような人たちがいるのか、住民の人は分かるのですか。

○学校支援課長

そこについてはなるべく分かるように。

○齋藤委員

会社名はそうですね。こういうデザイン会社が新潟市内にあって、いかがですかと言われても、地域の人たちが具体的に何か浮かびますか。

○学校支援課長

それについては、会社が出しているサンプル作品がありますので、いろいろな会社のロゴマークやいろいろな会のロゴマークを作っているということで出ている会社ですので、ロゴマークについてカラー印刷をして、この会社はこのようなロゴマークを作っていますということでお見せして、校章を作っているところはないので、そういう方々がデザイナーをしている会社なのですからけれども、いかがでしょうかということで、会社名だけではなくて、ロゴマーク等をお見せしてご意見等を伺ったところです。

○齋藤委員

前の議事録を見てもらえば分かりますけれども、今、これから発言することと同じような内容の発言をしました。結果、依頼してしまったのでしょうか。

○学校支援課長

はい。

○齋藤委員

私たちがいろいろと意見を言っても覆らないと。依頼されている方をここで出されて、ご意見をとと言われても、非常に言いにくい部分があります。百歩譲ったとして、織田委員も言われるように、結果としてこうなったかもしれないけれども、なぜ新潟市は同じ人ばかりに立て続けに新しい校章を依頼するのかと、該当地域以外の人と思われることが危惧されるわけです。新潟市教育委員会とこの先生に何か特別なつながりがあるのでしょうかと。それを危惧しているわけです。

前回は申し上げました。例えば公募する方法もあります。地域の新しい学校ができる、校章ができる、校歌ができるという

盛り上がりといいますか、そういった意識を持っていただくために、専門家に対しては失礼な言い方かもしれないけれども、地域にゆかりの人から応募して、その中から諮っていてもいいのではないかと。

平成33年度の推計を見ると、いろいろなところで学校の統合の可能性があるので、少し考え方を工夫されたらどうか。私は公募もありなのではないかと、意見として思いました。この方のことをどうこうと言っているのではなくて、これだけ立て続けに同じ方で、また依頼するのかと。それは前回、私も危惧していました。結果的にこうなりましたというけれども、果たて選択肢がどれくらいあったのかと。すでに依頼されたので致し方ないですけれども、織田委員の意見もそういったことで、私のようにきつくは言わないでやさしく言われていますけれども、それが本意ではないかと私は察しています。これは意見です。もう依頼されたら反対というわけにはいかないわけですから、今後に向けての意見です。

○学校支援課長

齋藤委員がおっしゃるとおり、昨年度お話をいただきまして、私どもも、できるだけそのような形で何とかうまくいかないかということでいろいろと探したのですけれども、今回、公募という形をとりませんでした。我々の範疇でいろいろと努力した結果、このようなご報告になって大変申し訳なかったと思っています。今後はさらに今ほどのご意見を聞いたうえで検討してまいりたいと思います。

○伊藤委員

繰り返しのなってしまいますが、やはりデザインを決めるにあたっては作成費もかかるということでこのようになったのではないかと思います。しかし、希望としては公募という形で、この地域ではデザインや創作について学んだりしている若い人たちもいるわけですし、いろいろな人が地域にいて、卒業してその中から何かよいアイデアが出たものを、例えば第一線で活躍されている方々に監修していただくような形もできるのでは。

あまりにも集中しているけれども、それにはきっと理由があるのかなと思いつつ今までも、また今回も思いました。実は言わないでおこうと思ったのですが、私は同じ方ではないかということで、決定の方法については前回もご意見がはっきりと出ていました。今のお話ですと、今回も公募という方法をとりませんでしたというお答えなのですが、できればいろいろな人のアイデアを集めるよい機会、校章、校歌、いろいろなものを作るときの機会でもあると思いますので、私も意見としてお伝えしたいと思います。

○教育長

ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。では、この案件については以上です。

次に、「新潟市教育フォーラム 2015 クロスパルにいがた開館 10 周年記念講演会『ともに学び、育ち、創る～豊かな新潟を目指して～』事業報告について」、生涯学習センターから願います。

○生涯学習センター
次長

5月9日に開催しました新潟市教育フォーラム 2015「ともに学び、育ち、創る～豊かな新潟を目指して～」について報告いたします。本教育フォーラムは、当市の生涯学習における拠点施設として平成17年5月7日にオープンしたクロスパルにいがたが開館10周年の節目の年を迎えることから、クロスパルにいがた開館10周年記念講演会として、市民一人一人の生涯学習への意欲を高め、学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図ることを目的に行いました。冒頭、クロスパルにいがたのこれまでの10年の歩みを映像で振り返った後、アトラクションとして、日ごろ、クロスパルにいがたで活動されている合唱サークルから総勢50人の迫力ある合唱のハーモニーを披露していただきました。

当日の講演は、アナウンサーで元NHKアナウンス室長の山根基世さんを講師としてお迎えし、NHKでの体験や子どもの言葉を育む活動などについて語っていただきました。また、篠田市長とのトークタイムでは、お互いのアナウンサーや記者時代の経験談や、子どもが大人と一緒に空間をともし、大人の振る舞いを見て成長することはとても大切なことであるといったことを、なごやかな雰囲気の中でお話していただきました。

入場者数につきましては384人で、そのうち一般市民の方が322人でございました。今回は山根基世さんを現役のアナウンサーとしてテレビでよく見た世代なのか、60歳以上の方の参加が多かったのが特徴であると思います。アンケートの自由記述の中から主な感想をまとめてありますが、好意的で前向きな内容のものが多く、講演、トークタイムを通じて世代間交流、地域で子どもを育てる大切さについて認識していただくとともに、山根さんの生き方、取組みを聞くことを通じて学びの大切さについて考えていただくことができたと思います。今後も市民一人一人が豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、いつでもどこでも学習することができ、その成果を生かすことができる生涯学習社会の実現を目指して、生涯学習の一層の推進を図ってまいります。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問はございますでしょうか。

○織田委員

参加申込み・当日入場者なのですけれども、今ほどご説明に

あったとおり、一般市民の入場者が非常に多く、年代的にも少し先輩方の割合が多かったですね。その下にあるアンケート回答者のお住まい地域を見ると、西区、中央区、東区が多いです。会場の関係で当然かと思えます。

もう一つ、今回はクロスパルにいがた開館 10 周年ということも合わせての企画ですので、クロスパルを普段ご利用されている方がご来場されることが多かったかと思えます。

がしかし、昨今は新潟市内あちこちで、生涯学習活動をしていらっしゃる方はたくさんいらっしゃいます。その拠点としても各地に良い施設があるので、今後は市内のいろいろな区に出て行って、あちこちで教育フォーラムが開催できるようになると、もっと幅広い地域、年代の方が関心持ってご来場いただけるのではないかと感じました。

○生涯学習センター
次長

ありがとうございます。今回はクロスパルにいがた開館 10 周年ということで、当センターが中心となって行ってまいりました。教育総務課がフォーラムの担当になりまして、今のご意見は総務課長がここで聞いておりますので伝わっているかと思えます。

各地区公民館など各区で全く同じレベルのものをやっていくというのは、予算の関係などハードルもあるのですが、各々の区に生涯学習の拠点の公民館がありますので、そこと相談しながら、各区においても生涯学習の振興に努めるような事業展開をより一層深めていきたいと思っています。ありがとうございました。

○吉村委員

大変いい事業、素晴らしい講演でした。お疲れ様でした。

素人の立場で恐縮なのですが、全体を通した中で、あの合唱の存在がけっこう大きかったのではないかと。特に齢を重ねた方々で、男性があれだけ声を出すというのはなかなかのものだと思います。これこそ生涯学習の権化だと私は感動していたのです。気持ちの問題ですけれども、もう少しあの方々にかかわる紹介や日ごろの活動などを紹介してもらえれば、一層市民に近い生涯学習の一環になったのではないかという気がしました。大変生意気申し上げて恐縮ですけれども、そのように思いました。

○生涯学習センター
次長

ありがとうございました。クロスパルを日ごろからご利用いただいている方たちでございまして、今回、開館 10 周年ということでフォーラムのほかに記念式典を行う中で歌声なども披露していただきました。

委員がおっしゃるように、もう少し詳しく活動状況などをご紹介できればよかった部分がございますので、いただいたご意

見を参考にしながら、今後の事業展開に努めてまいりたいと思
います。ありがとうございました。

○教育長

ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では、これで終了します。

それでは、次回の日程について説明をお願いします。

第4 次回日程

○教育長

次回の日程について説明を求める。

○教育総務課長

7月につきましては、7月29日水曜日午後2時30分から、
8月につきましては、8月28日金曜日午後3時30分から定例
会を予定しております。

第5 一時閉会

○教育長

午後4時35分 定例会を一旦終了する。

傍聴人・報道はご退席ください。事務局も両教育次長，教育
総務課長，学校支援課長及び教育総務課事務局を除きご退席く
ださい。

第6 定例会再開

(非公開案件)

(報告

「平成28年度使用教科用図書(中学校用図書)及び平成28
年度使用一般図書(特別支援学校・学級用)の専門調査員の
委嘱について」報告する。)

第7 閉会宣言

○教育長

午後4時40分，閉会を宣言する。

以上，会議のてん末を承認し，署名する。

署名委員

署名委員